

今回の「ROSSI 四季報特別号」は、2001年11月22日に開催した、本学社会システム研究所学術公開講演会の概要を収録したものです。

立命館大学「社会システム研究所」学術公開講演会

- 演題 『通貨危機後のアジア経済と日本』
- 日時 2001年11月22日(木) 午後2時10分～
- 場所 立命館大学びわこ・くさつキャンパス プリズムハウス104号教室
- 主催 立命館大学社会システム研究所



株式会社 第一生命経済研究所
特別顧問 佐藤 光夫 氏

PROFILE

1955年 3月 東京大学法学部卒業

1955年 4月 大蔵省入省

1993年11月 アジア開発銀行総裁

1999年 2月 株式会社 第一生命経済研究所 特別顧問

1. はじめに

第一生命経済研究所の佐藤でございます。本日はこの公開講演会にお招きをいただきまして、大勢の学生のみなさん、あるいは社会人のみなさんの前でお話ができることを大変光栄に存じておる次第でございます。

今日はそこにありますように「通貨危機後のアジア経済と日本」というタイトルでお話いたしますが、こと細かにアジア経済の話を上上げるつもりはありません。お手元のレジュメにありますようにアジア開発銀行での経験、アジアの通貨危機、あるいは中国をどう見るかといったお話を通じて、私が考えていることをご参考までにお話をいたしたいと思っている次第です。言うなれば体験的な、経済論ではなくて文明論的な話になるかもしれませんが、後で活発なご意見・ご質問を頂戴できれば幸いに思っておる次第です。

2. アジア開銀総裁の日々

設立の経緯

まず最初、私が1993年から99年まで、5年余り勤務をいたしましたアジア開発銀行(Asian Development Bank)の話から入ってまいりたいと思います。

ADBは、1966年ですから今から35年前にできた開発援助銀行、開発援助機関です。実はこの銀行、この国際機関は東京にできるはずだったんです。日本国政府は日比谷公園の一角に敷地まで用意をして、東京に誘致できれば総裁職はいらない、副総裁 Vice President で結構だというポジションでありましたけれども、それが一夜にしてひっくり返りましてマニラへ行ってしまったんですね。その背景につきましてはいろいろ取り沙汰されていますが、当時のマルコス大統領、正確にいうとまだ大統領に就任する前の、選挙で勝って大統領に指名 designate されたマルコスさんの猛烈な接待工作があったと言われております。夕日の沈む美しい